

執筆者紹介

片井 啓太郎 本学大学院外国語学研究科欧米言語文化専攻博士前期課程修了(2019年3月)
劉 燕嵐 本学大学院外国語学研究科中国語文化専攻博士後期課程3年

編集後記

今回の号で学術上大変意義のある2本の論文をお届けすることができることは大変喜ばしいことです。片井啓太郎氏はスウェーデンにおけるサーミに対する言語政策を「国内」の領域、「国際」の領域、「他国」の領域の3領域にわたって分析した上で、現状と今後の課題について論じています。一方、劉燕嵐氏は形式意味論にある命題論理及び述語論理の手法を用いて現代日本語の連体修飾成分の論理構造の記述と意味の考察を行っています。広い視野と優れた研究能力を持つ国際的な研究者を目指して言語を取り扱う外国語学研究科を象徴するような論文2本であるといえるでしょう。今号の論文刊行で若手研究者としての一步を踏み出した両名が今後もさらなる研究を続けていくことを願うばかりです。
(編集委員 細田由利)

投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を修了した後の2年間は投稿できるものとする。
 2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
 3. 完全原稿を提出すること。
 - ・ 長さは、日本語・中国語の場合はA4版（横33字、縦29行）で20枚（2万字程度）、その他の言語の場合はA4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。
 - ・ 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の名前を明示する。
(例)
Verbal Irony and Echoic Use KANAGAWA Tarou
The phonological system of Hum mong ja hoe KANAGAWA Hanako
 4. 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外の加筆・削除は認めない。
 - ・ 原稿を提出する際は、次の3点を提出すること。
 - ア) 完全原稿を出力したもの 1部
 - イ) 原稿表紙（名前・所属・連絡先・論文標題を記した一覧表）1部
 - ウ) 外部メモリ（USB等）にア)とイ)を保存したもの（後ほど返却）
4. 原稿提出締め切り：11月30日（厳守）
（執筆者は7月31日までに編集委員に提出論文の概要と予定字数を予告すること。）

(2011.12.14 研究科委員会承認)

神奈川大学大学院
言語と文化論集 第26号

2020年2月 印刷
2020年2月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究所
(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)

製作 共立速記印刷株式会社